野田阪神駅 60分コース

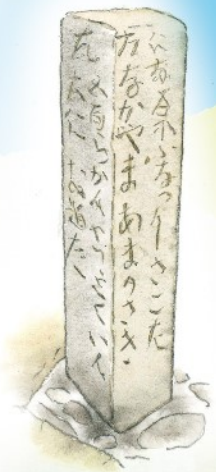
Osaka Metro まちさんぽ

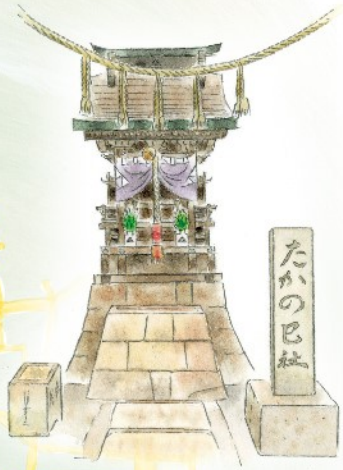
千日前線 野田阪神駅

野田阪神・大和田街道に沿って

野田洲、鷺洲、海老洲、むかしは大坂湾の中洲でした

淀川が海に注ぐところにできたいくつもの中洲が島になり、難波八十島と呼ばれました。
野田、鷺洲、海老江は太古に生じた土地で、やがて海沿いに道ができ、集落が形成されました。
ここには大阪湾が茅渟の海と呼ばれた頃からの歴史があります。





スタート駅 野田阪神駅 ②号出口 千日前線

約60分

1 石畳の路地
2 大和田街道（梅田街道）
3 海老江八坂神社
4 疏河紀恩之碑（淀川改修記念碑）
5 羽間文庫（羽間邸）
6 江戸時代の道標
7 南桂寺
8 松瀬青々旧跡
9 たかの巳社
10 朝日地蔵尊

ゴール駅 野田阪神駅 千日前線

戦災に遭わなかった海老江の石畳路地には昭和の暮らしがよみがえったような郷愁が漂っています。ここに住む人々が思いを込めて守ってきた下町風情の住環境は、大阪に残る貴重な光景となりました。

野田阪神駅 60分コース

Osaka Metro まちさんぽ

千日前線 野田阪神駅

野田阪神・大和田街道に沿って

野田洲、鷺洲、海老洲、むかしは大坂湾の中洲でした

淀川が海に注ぐところにできたいくつもの中洲が島になり、難波八十島と呼ばれました。野田、鷺洲、海老江は太古に生じた土地で、やがて海沿いに道ができ、集落が形成されました。ここには大阪湾が茅渟の海と呼ばれた頃からの歴史があります。

スタート駅 千日前線野田阪神駅②号出口 ― 約60分 ― ゴール駅 千日前線野田阪神駅

1 石畳の路地

海老江7丁目の石畳路地は、大阪の住宅街では希少な光景になりました。阪神国道(国道2号線)の路上を走っていた阪神電車国道線が昭和50年(1975)に廃止されて、鉄道の敷石が住民の希望でここに敷設されました。

2 大和田街道（梅田街道）

ここには江戸時代から尼崎の大物で中国街道に出合う道があり大和田道と呼ばれていました。中津川では渡し船で渡河していましたが、明治41年(1908)に開削された新淀川には長さ735mの鉄橋・西成大橋が架けられ、大和田街道(梅田街道)と呼ばれる幹線道路になりました。西成大橋は大正15年(1926)に阪神国道の整備とともに淀川大橋に架け替えられ、同時に大和田街道の名は消えました。

3 海老江八坂神社

祭神は素盞嗚尊で牛頭天王社と呼ばれていましたが、明治の神仏分離令で八坂神社に改称されました。境内の石灯籠に天治(1124～1126)の文字があることから平安時代後期には存在していた古社です。明治期の関西俳壇の大御所・松瀬青々の句碑「菜の花の はじめや北に 雪の山」と、西成大橋の親柱があります。

4 疏河紀恩之碑(淀川改修記念碑)

かつての中津川は大きく蛇行する暴れ川で、氾濫を繰り返して住民を苦しめてきました。明治18年(1885)には有史以来といわれる大洪水が発生し、さらに何度か洪水を連発して大阪は甚大な被害を受けました。そこで新淀川の開削が計画され、明治29年(1896)から大改修工事を開始して明治43年(1910)に完成しました。このとき、海老江村の北部90町余(90ha)もの土地が河底に沈みました。

5 羽間文庫(羽間邸)

地元で羽間文庫と呼ばれている旧家は、江戸幕府に仕えて伊能忠敬を指導した大坂の天文学者・間重富の子孫の邸宅です。重富に関する文献・資料を収集して保存されていましたが、現在は大阪歴史博物館に寄贈されています。住居ですから内部の見学はできません。

6 江戸時代の道標

羽間邸前に江戸時代の道標があります。正面に「左・五百らかん(妙徳寺)了とくいん(了徳院)・大仁(大淀の大仁村)むめた(梅田)」と読め、右面は「右・藤名所(野田村の藤)ふ奈つハシ(船津橋)さこ者(雑喉場)左・奈かやま(中山寺)あま可さき(尼崎)」です。この道が四方につながっていたことがわかります。

7 南桂寺

明治の初め頃、住職が傷ついたホトトギスを手当てしたところ、非常に美しい声で鳴きだしたので噂になり、多くの人が見物に訪れました。このホトトギスを盗もうとした者が、村人に見つかって争いになったあげくにホトトギスを殺してしまいました。こうして「郭公塚」が造られ、羽根が現在も保存されているそうです。南桂寺見学は予約が必要です。

8 松瀬青々旧跡

関西の高浜虚子とまでいわれた俳人・松瀬青々は、壮年期にここに住んでいました。青々は明治2年(1869)に船場で生まれ、呉服行商や銀行勤めを経て上京し、正岡子規の句誌『ホトトギス』の編集に携わりました。帰阪して大阪朝日新聞で朝日俳壇を担当し、句誌『宝船』を主宰しました。南桂寺境内に碑が建てられています。

9 たかの巳社 10 朝日地蔵尊

江戸時代初期、このあたりは尼崎城主青山幸利が鷹狩をした原野で、ここに白蛇が棲みついていたので「たかの巳社」が造られたとされています。朝日地蔵尊は出現したときに光り輝いていたという伝承から名づけられました。近くに住んでいた松瀬青々が揮毫したという扁額がかかっています。

文中の「おおさか」表記には、一般呼称や明治以降については「大阪」、江戸時代以前については「大坂」を使っています。
なお、掲載している情報は2023年2月時点のものです。内容は変更されている場合があります。

発行：Osaka Metro
協力：一般社団法人大阪あそ歩委員会　(お問い合わせ先)大阪あそ歩 info@osaka-asobo.jp
後援：歴史街道推進協議会

このコースや他のコースの〈ガイド付きまち歩き〉については、下記の「大阪あそ歩」のホームページをご覧ください。

https://www.osaka-asobo.jp または 大阪あそ歩 で検索

ご注意

※まち歩きには歩きやすい服装で、足下や車などの往来に十分注意し、事故のないように各自で責任をもって行動してください。
※プライバシーにかかわる場所での写真撮影や大声での談笑はご遠慮ください。

ご案内

※駅スタンプは駅長室付近に設置しています。参加記念にぜひ押印してください。

Osaka Metro × 大阪あそ歩 × 歴史街道　毎月第1金曜日発行

駅スタンプ押印欄

制作:大阪あそ歩委員会／オフィス・オルタナティブ　編集:伏見佳子　デザイン:田原克子　イラスト:櫻井さなえ